



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2026年01月19日 第1251「週刊五十嵐レポート」

AIで淘汰

1月18日付日経新聞、「直言」は音楽家YOSHIKI氏へのインタビュー。

人工知能(AI)が音楽の世界に急速に浸透している。創作や演奏などこれまで人間が担ってきた領域でAIが存在感を増す中、生身のアーティストは生きていけるのか。音楽産業やアーティストはAIと共存できるのか。

「チャットGPTが出てきてから世の中が一気に変わった。私の友人にもAIが作成したかどうかまったく気にならない人はいる。AIはものすごいスピードで楽曲を作成できる。聞き手からすれば、AIがつくっても人がつくっても、音楽には変わりはない。アーティストは存在意義を問われている。権利を守っていないと、アーティストという存在自体がなくなってしまう。長年アーティストをやってきたが、アーティストという職業がこの時代に残れるのかすごく考えている。何でもAIが担えるようになるなら、私たちは何をすればいいのか。人間はどこまで必要とされるのか。極端に言えば「生きている意味は何なんだ」という所まで行く。そこから逆算して今後どうなるんだと考えるようにしている」。

エンジニアの話。「生成AIが出てきて、仕事のやり方が変わった。エンジニアの今までの経験値が全部AIで完結する。今まで20年間やってきたものが奪われる。プライドがズタズタにされる。AIの方が優れている。エンジニアとしてはここが変わり所。自分より優秀な頭脳をどう使うか。AIが出来る所はAIに任せ、AIと一緒に開発し、残った時間は営業やマネジメントに力を注がないと将来は危険である」。

私の経営コンサルタントの知識も生成AIに凌駕されていると感じる。経営コンサルタント業という仕事も少なくなるだろう。生き残る方法はある。AIを活用する立場になる。人間でなければ出来ない所を担う。

社長のリーダーシップのテキストに、リーダーの役目は、必要なデータ収集と閃き(ひらめき)や創造性が必要になると書かれている。更に部下やチーム内内の人間関係を良くする能力と目標を効果的に達成する計画能力、および与えられた仕事をやり遂げる断行能力が必要であると。これらはAIではなかなか出来ない。人は研究心と向上心を持って生きていく。

ちょっと
気になる出来事

1月9日付日経新聞、「そして続く戦後」で、「菊とバット」「イチロー革命」の著者ロバート・ホワイティング氏のインタビューがあった。

野球はおよそ150年前米国から伝わった。日本は選手やチームの和を重視し、米国はビジネスライクだと考えていた。米国では観客が選手に思い思いに大声をかけて応援する。日本は応援団という組織をつくって整然さを保っている。

日本人大リーガーは米国のベースボールにどのような影響を与えたか。

練習の取り組み方など野球への考え方を変えた。大リーグでは試合前の練習はほぼしていなかった。イチローはウエイトトレーニングなど一人でかなりの練習量をこなした。その姿に大リーグの選手は影響を受けた。大谷選手は米国で主流だった「投手は投手、打者は打者」との考えを打ち破った。米国は二刀流のノウハウを日本に求め、日本が「先生」となる。

昨年のワールドシリーズで山本投手の連投も米国人も驚いた。トレーニング方法も日本から学ぶことがあるという。

これからも日本からメジャーリーガーになる人が続々出てくる。楽しみ。



一口メモ
知識

感いと過ち

過ちに気づいても改めようとしないのを
ホンモノの過ちと言うのであって、

過ちを恐れて何もしないというのは
元も子もないよ。

「高校生が感動した『論語』」(祥伝社新書/佐久協)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

